

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102053		
法人名	社会福祉法人 井ノ口会		
事業所名	グループホーム なごみの杜		
所在地	岐阜県岐阜市奥1丁目95番地		
自己評価作成日	平成30年7月5日	評価結果市町村受理日	平成30年9月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2015_022_kani=true&amp;ij_gyosyoCd=2170102053-00&amp;PrOfCd=21&amp;Versi onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2015_022_kani=true&amp;ij_gyosyoCd=2170102053-00&amp;PrOfCd=21&amp;Versi onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	平成30年7月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人がもつ母体である特別養護老人ホームとの連携、施設間の介護・看護職員等の連携により、単独のグループホームに比べてよりよい介護を行うことができる。また、種々の行事やイベントの参加を通して利用者の楽しみの時間を増やすことができる。1ユニットのため、少人数の利用者に対してきめ細かな支援が可能。  
季節を感じるように、お花見や紅葉狩りなどの苑外活動を行ったり、気分転換をかねて、法人内施設の広々としたお風呂へ定期的に出かけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昼食の際、食堂に案内されると全員の方が「こやかに歓迎してくださった。配膳は手伝うことができる方による当番制で行われ、三角巾、エプロンを付け、真剣な表情で、食品の盛り付けを始められたり、配膳が終わると盛り付けを行っていた利用者が互いにエプロンの着脱を助け合いながら行っている様子が伺えた。1ユニットのグループホームであるが、看護師が配置され、利用者や家族に安心感をもたらしている。長年勤務する職員が多く、資格取得に向けての支援が積極的に行われている。この事業所で指導を受け、資格を取り、仕事に生きがいを感じているとの職員の声も聞かれた。また、居間から見える場所で15年前、迷い犬だった「さくら」を飼育している。さくらは利用者の癒し犬となっているだけでなく、近隣の方々との交流の機会にも一役買っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念を「安心と尊厳の持てる生活の構築」として管理者・職員は利用者本位の意識を持ち援助に心がけている。	具体的な重点目標として、春は利用者の希望に沿った苑外散歩を実施し、夏は多様なレクリエーションやゲームを取り入れ、体力強化をする。また、秋は文化祭に向けての作品作り、冬は家族との外食支援を計画に掲げ、理念の実現を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育所・小学校・中学校の行事への参加、園児、小中学生が来苑しての交流がある。 近隣住民の柿畑で柿取りをさせていただいたり、愛犬を通じた交流がある。	地域の行事(花まつり、神社の祭礼等)に参加したり、また、法人が主催する夏祭りには、多くの地域の方が参加してくださっている。事業所の周辺を散歩されている方から声かけや挨拶をしていただく等、日常的に交流がもたれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防教室の交流や地域ボランティアの交流を通じて、施設へ訪れやすい環境にしている。施設の行事を地域に公開したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日常生活をなごみだよりで紹介をしたり、活動や事故・苦情を含めた報告を通し指導や意見を頂き、施設での介護サービスの向上に努めている。	推進会議は、2か月ごとに、決められた日時に開催されている。会議内で紹介される「なごみだより」は写真をふんだんに活用して、利用者の日常生活をわかりやすく紹介している。また、会議ではヒヤリハットや事故報告が行われ、対応についても協議されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課への確認事項や質疑などの連絡、グループホーム協議会での情報を取り入れている。空室や待機者情報の連絡をしている。	運営推進会議に市町村担当者の参加があり、法改正の内容について説明をいただいたり、事業所の様子を伝えたりしている。市町村担当者が出席できない時には、運営推進会議の内容を知らせる等、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全上やむを得ず、玄関の施錠は行っている。できる限り散歩や苑外等の屋外へ出る機会を作っている。日中は居室の外に面した戸の施錠は行わず自由に庭に出られるようにしている。身体拘束に関する話し合いを会議の時にし、職員が理解を深めている。	汚れ物を押し入れにしまい込んでしまう等、周辺症状のある利用者の押し入れの開閉の制限について議論が行われたり、利用時にミトンを使用していた方に対し、ミトンの使用をしない対策を話し合ったりする等して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴言や暴力など虐待防止について、新聞の記事などを通し、知識とケアのあり方を会議の場などで話し合いを行い、利用者に敬意を持った言葉掛けができるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度の内容について、研修等に参加し得た情報を機会あるごとに家族や相談者に提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、契約締結時・その後の家族との面談時など、機会あるたびに行い、施設の理解を深めるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受け付けや意見箱の設置、意見・要望・提案等のお伺い書を作成し家族へ配布し意見の収集に努め、運営に反映できるようにしている。	「お伺い書」を工夫し、家族の意見や要望について収集している。「筆筒の中に汚れ物が隠れていた、時々点検して欲しい。」とか「家では見られなかった姿が見られるようになった。」等の感想や意見、要望を把握し、利用者への対応に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議で職員の意見を出し合い、グループホームとケアハウスの職員が協力して業務を行っている。ケアハウスの職員からも提案を受けて、運営に生かしている。	ケア会議が毎月定期的に行われ、会議録には内容が詳しく記載されている。「安全を確保するため見守りを強化しよう。」とか「利用者の自由な行動を制限しない。」等の確認が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議や個人面談で、勤務形態や対人ストレス等について対応している。個人のスキルを上げるための研修参加の機会を設ける等個々の向上心が持てるよう環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や各種会議を通し、研修を受ける機会を設けている。個々の特性を活かすスキルアップが図れるよう指導を行っている。また、種々の資格が取りやすいように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会や地域の会議に参加し、ネットワークを広げよりよいサービス提供が出来るよう取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報をもとに、本人との会話が多く出来るよう時間をつくり話がしやすい関係作り心がけている。また、他の利用者との関係が円滑に持てるよう職員が関わりを持つ。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には、介護支援専門員が施設での近況を報告し、家族の要望等を把握するようにしている。面会のない家族については電話やメールを活用し連絡を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談時には介護支援専門員や介護職員が本人家族が求めている支援をグループホームに限らず、法人内の介護サービス、デイサービス、特養の提案を行い、選択肢を増やすなど協議を重ねている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じた役割を担う。家事分担当の作成により掃除・洗濯・配膳等を行う。職員や他者と協力し自分の役割を持つことで共に支え合う関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が介護に参加出来るよう、苑外活動への家族参加の呼びかけや、体調不良時の病院への付き添いなどの協力を得ながら支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会はいつでも自由にできる体制になっている。家族との外出、面会時は各居室でゆっくり過ごして頂き、また、家族との外出、法事への参加を促している。	利用当初には近隣の方の面会があるが、事業所が立地的にロケーションが良い反面、交通のアクセスの影響もあり、面会機会が多い方ではない。法事への参加については馴染みの人、場所との関係を維持する上で有効ととらえ、家族に勧めている。	利用の長期化、利用者の高齢化や関係者の高齢化と共に、馴染みの人や場所との関係は薄れていくことが予想されるが、今後とも、家庭の様々な行事等への参加を促すとともに、事業所の行事には声かけをする等して来訪の機会拡充に向けた取り組みに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼間はできるだけ、他の利用者と共にサロンで過ごして頂いている。家事(配膳・洗濯・庭掃除など)共同作業を行い、職員は円滑に行えるよう見守りを行い、孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	症状が進行し、退居となる場合も、次の介護施設等を紹介し、本人や家族の不安を取り除く支援を行っている。次の施設に対しては、細かな情報伝達を行い、持続性のある介護になるよう心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時々、ここでの生活で困ったことはないか、何かしてほしいことはないか等の意向の聞き取りを行い、プランに反映し、本人本意の介護を心がけている。	日常的なケアの中で利用者一人ひとりに寄り添い、希望や意向を聞き出すよう心がけている。また、ケアプラン見直し時には改めて聞き取り調査をしている。把握した思いや意向は申し送り時に伝えるとともにケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの聞き取りで今までの生活歴の把握に努め、介護に反映できるよう、記録にしている。職員が、個人記録をいつでも閲覧できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報の共有に努め、現状の把握を行っている。夜勤前の打ち合わせで、その日の利用者情報を伝え確認し合っている。翌朝には、夜勤者が夜間の様子を伝え、記録に残し、日勤者との情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	初回面談時や面会時・電話連絡で、本人・家族の意向を確認し、介護計画更新前に各職種と共にカンファレンスを行い、介護計画の作成・見直しを行っている。	他事業所から移ってこられる方が多いので、家族からの情報だけでなく、前事業所での生活状況等についても十分に把握し、職員間で話し合い、介護計画を作成している。また、モニタリングを行い、経過記録で共有し、次の計画書に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録・ケア実行表・排泄記録・水分摂取量・レクリエーション実行表等活用し情報を共有し、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設で行っている映画会やカラオケの参加、入浴設備や交流スペースの活用や近隣の特別養護老人ホームの連携によりサービスの多様化を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育所・小中学校や近在の特別養護老人ホーム・ケアハウスとの交流、地域ボランティアや消防の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人・家族との協議で選択している。通院や投薬に関して不安のないように安全性に留意している。内科、歯科訪問診療、精神科の往診を受け、相談している。整形外科、皮膚科等の医師とも連携を図っている。	従前のかかりつけ医や協力医等、かかりつけ医の選択は自由であり、受診に際しては、日常の様子や変化を家族に伝えるとともに、受診結果についても家族から情報提供を受けている。協力医の往診時や他科受診の情報も家族と共有できるように支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配属により、日常的に医療に関する相談が可能になり、隣接の特別養護老人ホームの看護職との連携も行い、緊急時や応急処置など指導を受けて診療までの対応や生活のアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはこれまでの生活状況を介護サマリーとして情報提供し、早期退院が出来る受け入れ体制を整えるため、医療関係者への状態確認等の聞き取りを行い情報把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化やターミナル対応については、本人・家族の意向を最優先し、最善な支援を事業所だけに留まらず、かかりつけ医との相談や家族と個々の状態に合わせてターミナルケアについて話し合いを持っている。	食事摂取が困難になる等、重度化した場合やターミナル期を迎えた場合等の専門的対応が必要な場合について、他施設や関係機関の紹介も含め、今後のターミナルケアの方向性を利用者、家族と十分に話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接の特別養護老人ホームの看護職との連携を取り、緊急時や応急処置など指導を受けて診療までの対応や生活のアドバイスを受けている。感染症の対応やAEDの操作などの勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、近在の特別養護老人ホームや法人内の職員に連携がとれるように訓練をしている。利用者は、職員と共に実際に避難する訓練を行っている。	毎月、避難訓練が行われ、避難経路や移動時間の把握に役立っている。災害に備えての備蓄は栄養士が利用者職員を含めて3日分用意している。地域の避難所としての受け入れ先ともなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活歴や家族の話から、本人のこだわりやプライバシーの配慮を心がけて声をかけている。また、敬意を持った言葉遣いができるように職員どうしで互いに注意しあっている。	日頃のケアについて、利用者尊重とプライバシーの配慮に心がけ、人生の先輩として敬意を払い、尊厳を持って対応できるように努めている。着替え、トイレ使用時や入浴時等の羞恥心を伴う場面では、あからさまな声かけを慎み、さりげない声かけや見守りに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、自己決定が出来る環境作りを心がけ、更衣やレクリエーション、おやつなど自己決定出来る場を設けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆と一緒に活動を行うことが多いが、強制ではなく、日課には、自由に選択出来る時間を設け、その方の意向が引き出せるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が大切にしている価値観を尊重し、その方の生活習慣やみだしなみ・好みの化粧品等の購入等家族と共に支援を行っている。季節に合った衣服等の持参を家族にお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員がそばに寄り添い、利用者と共に、盛り付け・配膳・後片付けまでの一連をそれぞれの役割を持ち参加出来るよう支援をしている。おやつ作りや昼食作りの企画で変化をもたせ、行事食等楽しむ工夫をしている。	利用者による当番表が作られ、それぞれの能力に応じて力を発揮し、厨房とのやりとりやトッピング等の準備を行っている。昼食の準備は利用者の五感の刺激にもなっているとのことである。嗜好調査も行われ、利用者の好みも反映されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重や体調等状態にあった食事を栄養士の管理の下で栄養バランスのいい食事を計画している。食事摂取量や水分摂取量の記録を行い、不足がないよう個々に確保出来るよう支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の状態により対応し、口腔内の清潔・咀嚼や嚥下状態等把握しながら行っている。必要に応じ訪問歯科診療で指導を受けている。義歯の洗浄など、職員の声かけや補助で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表で細かくチェックし、排泄のパターンを把握するようにしている。個人の排泄動作の困難な部分を援助するを基本に、本人が出来る動作は自立で行って頂き、できる限り最小な援助に心がけている。	排泄時間や周期をとらえ、一人ひとりにあった排泄介助の調整が行われている。布パンツで過ごされる方やパットの当て方においても、それぞれの身体機能や寝る向き等、利用者一人ひとりの状況に応じて工夫を重ね、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の対策としては、寒天や食物繊維を含む食材やおやつ、水分補給を心がけ、個々の状態を把握している。散歩や体操・運動を行うよう取り組んでいる。状態に応じて下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は概ね曜日や時間を設定しているが、週3回の入浴で本人の気分やタイミングを計り入浴が出来るよう援助している。ケアハウスの共同浴室を利用したり、お出かけをかねて、あんずの里の広い浴室で入浴を行っている。	事業所内で週1回の個浴の他、他施設での外湯利用の形も取られており、利用者の楽しみとなっている。また、他施設では、入浴による馴染みの方との交流も深めている。時には入浴を拒まれる利用者に対しても複数の職員で対応して安全に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝までの時間の過ごし方は、本人の意向を重視している。安眠が出来る環境(室温や寝具等)を整え、個々の眠りに合わせて支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳の確認や服薬指導の把握に努め、症状の変化を確認している。必要に応じ主治医や薬剤師に相談している。投薬の間違いないように、服用までに3回のチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事分担で役割を持ち、レクリエーションでは、一律にならないよう意向を確認しながら、音楽を聴いたり、テレビを見たり、新聞を読むなどその方の楽しみ方を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力のもとで、個々の希望の外出がかなうよう相談支援を行っている。季節を感じられるよう苑外活動や他施設での行事参加などを行っている。気候の良いときは、施設周辺の散歩などを取り入れている。	車いすを使用されている方も含めて外出の機会が持てるように支援している。近所の神社へ出かけたり、毎月のお経の会、音楽療法、受診や墓参り等、日常生活の折々に機会を設けて外出支援が行われている。場所によっては、家族同行の協力をお願いすることもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いについては、施設で管理を行い、定期的に家族に報告を行っている。買い物や苑外活動を通してお小遣いの使用を本人にしてもらうこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会になかなか来られない家族と電話連絡などができるように援助している。遠方からのご家族からの宅配物を、一緒に開封したり、メッセージカードを代読して本人に伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昼間は、サロンや居間などの共用スペースで自由に過ごして頂いている。サロンと居室との行き来も自由に行っている。季節を感じる毎月のカレンダー制作、季節の花を卓上に飾る、音楽を楽しむ心豊かな時間が過ごせるように配慮している。	食堂は厨房と対面式になっていて、職員、配膳当番の利用者、その他の利用者が和気あいあいと食事の準備ができるようになっている。建物の構造上、居間から廊下全体を見通すことは困難であるが、廊下の曲がり角に鏡を設置する等工夫し、安全に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子の工夫や居間の利用で、くつろぎやコミュニケーションの場を作ったり、ひとりになれる居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と協議で馴染みの家具や装飾品等によりその方らしい環境作りに努めている。また、クラブ活動のアレンジメントフラワーを飾ったり、塗り絵の作品を飾ったりしている。	各居室はきちんと整頓され、清潔感が感じられる。夜勤者は勤務に入ると、まず各部屋の掃除を行い、部屋の変化(飾られている花の様子、部屋の匂い等)をチェックしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置で安全な移動を確保した環境を整備している。フロアに不必要な物を置かないように配慮している。本人のADLや健康状態に応じ、自立性と安全性を計り援助を行っている。必要に応じ、歩行器等を使用して頂いている。		